



平成 30 年度

事業報告書

一般社団法人 北海道軽種馬振興公社

平成30年度事業報告（平成30年4月1日から平成31年3月31日）

当社は、ホッカイドウ競馬を継続かつ安定的に運営し平成28年3月に北海道が策定した第2期「北海道競馬推進プラン」を着実に推進するため、「北海道競馬の実施に関する業務」の委託を受け、馬産地の豊富な馬資源と屋内調教用坂路など競馬場施設の効率的利用を基本とし競馬事業の運営にあたった。

1. 公社運営に関する会議等

(1) 総会

ア 平成30年度第1回臨時総会

平成30年4月13日

- ・役員を選任について

イ 第42回通常総会

平成30年6月29日

- ・平成29年度事業報告
- ・貸借対照表、正味財産増減計算書及び公益目的支出計画実施報告書について

(2) 理事会

ア 平成30年度第1回理事会

平成30年4月13日

- ・理事長・副理事長の選任について

イ 平成30年度第2回理事会

平成30年6月15日

- ・平成29年度事業報告
- ・貸借対照表、正味財産増減計算書及び公益目的支出計画実施報告書について
- ・第42回通常総会の開催について

ウ 平成30年度第3回理事会

平成30年12月4日

- ・平成30年度ホッカイドウ競馬開催結果について
- ・平成31年度ホッカイドウ競馬開催日程（案）について
- ・一般社団法人北海道軽種馬振興公社の退職給与引当に係る資金運用規定の制定について

エ 平成30年度第4回理事会

平成31年3月20日

- ・事業運営の基本方針
- ・平成31年度事業計画案及び収支予算案

(3) 監査

監事監査

平成30年5月28日

- ・平成29年度事業報告並びに収支決算に係る監査

2. 北海道競馬実施事業

(1) 競馬事業費について

公社が道から委託及び補助を受け事業を実施した。

(2) 開催日程について

平成30年度のホッカイドウ競馬は、開催初日に濃霧ため4競走が取り止めとなったほか、9月の北海道胆振東部地震の影響により7日間が開催中止となったため、11月13日から15日の3日間を追加開催として申請、承認され、合計76日間の開催となった。

例年より4日少ない開催日程においても、南関東や他地区との相互発売、インターネット、電話投票などによる発売拡大に努めたことから、発売額は251億4,300万円（計画比：99.4%、前年比：102%）という結果となった。（16開催76日間 4月18日から11月15日）

また、非開催日においても、地方競馬（南関東・ばんえい競馬等）やJRAといった他主催者の場外発売により収益確保に努めた。

(3) 報償費について

春期における馬資源確保のため、3歳以上馬の転入促進策を継続・拡大し輸送費を補助するとともに本賞金全般の底上げを図り、各クラスの本賞金を見直し増額した。

また、平成30年は「北海道命名150年」並びに「ホッカイドウ競馬70周年」にあたる年であることから、赤レンガ記念競走を250万円から300万円、3歳以上A1クラス4競走を100万円から150万円に1着本賞金を上乗せした記念競走を実施し、交流重賞競走であるブリーダーズゴールドカップ競走及び北海道2歳優駿競走については将来的なJpnⅡへの格上げを目指し1着本賞金を増額した。

なお、(一社)ジャパンプリーダーズカップ協会（以下「JBC協会」という。）などから1着報奨金などの支援を頂き魅力ある競馬番組の提供に努めた。

(4) 発売拡大の取り組み

平成30年度の主要イベントは、「来場の動機付け」を重点に置き新たなファン層の獲得と広域からの集客をテーマに実施、場外発売所においては、引き続きJRA発売を実施し、収益確保とJRAファンの取り込みに努めた。

また、道外発売については馬柱等の情報提供の拡充、南関東ほか、他地域での発売拡大に取り組むとともに、電話、インターネット、JRAネット投票での発売拡大に努めた。

ア 集客イベント

開幕日の「開幕サンクスデー」、ゴールデンウィークの「春のケイバまつり」夏休みやお盆時期といった、家族連れやカップルのライトファン層を広域から集客可能なタイミングで重点的に展開した。

主なイベントとして

- ・開幕サンクスデー（4月18日）
- ・春のケイバまつり（5月2日～3日）
- ・シュエット・ジュマン・フェスティバル（8月14日～16日）
- ・ファン感謝DAY（11月15日）

イ 他主催者との連携強化による相互発売

南関東とホッカイドウ競馬の相互発売拡大を図る目的から、実施されている川崎競馬場における全レース発売や、大井・船橋競馬場ナイター3レース発売を実施するとともに、浦和の昼間3レース発売の拡大に努めた。

ウ 電話・インターネット投票

情報提供の拡充などを積極的に推進し、好調に推移しているインターネット投票による発売拡大に努めた。特に、JRAネット投票の発売については67日間（昨年実績71日間）実施した。

エ 全国発売競走

全国重賞シリーズであるグランダム・ジャパン、ダービーシリーズ、スーパースプリント競走、未来優駿などのシリーズ競走に参画したほか、新たにヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド門別を実施、全国発売による発売拡大を図った。

オ JRA 発売

ホッカイドウ競馬の場外発売所におけるJRA全レースを発売（A i b a札幌中央はメインレースのみ）（109日間：昨年110日間）するとともに、昨年引き続きG1競走の前売り発売をすることにより更なる収益確保に努めた。

（5）競馬番組について

競馬番組は、競馬事業の根幹部分であることから、ファンに魅力ある競走を提供していくことが重要である。

ホッカイドウ競馬は他の地方競馬とは異なり、2歳馬戦が競走の約4割を占め、その翌年には全国の競馬場へ多くの活躍馬を輩出し、全国の競馬ファン等から注目されている中で、距離適性に応じたスプリント、マイル、中距離のバリエーション豊かな競走距離を編成することにより競馬番組の充実を図った。

また、年間を通じた2歳馬の概定番組を発表することにより、馬主及び調教師等の関係者が出走させやすい環境を整えるとともに、競馬ファンが注目する興味ある競馬番組づくりに努めた。

ア JRA 認定競走

JRA協力金のもと、全国最多の107競走を実施した。

- ・重賞競走等 9競走

- ・ウィナーズ 14 競走
- ・フレッシュ 49 競走
- ・アタック 35 競走

イ JBC 協会協賛 スタリオンシリーズ競走

ホッカイドウ競馬の特色ある競走として定着し、全国から注目されているスタリオンシリーズ競走を、JBC 協会のご支援のもと全43競走実施した。

ウ JBC 協会協賛「きゅう舎スタッフ特別賞」

きゅう舎関係者の技術向上と意欲の向上を図るため、JBC 協会のご支援のもと重賞競走及び3歳条件競走で優勝したきゅう舎に特別賞を交付するJBC協会「きゅう舎スタッフ特別賞」を贈呈した。

・対象競走

2歳重賞競走	9 競走
3歳重賞競走	3 競走
3歳条件競走	24 競走

・交付金

重賞競走	10 万円
3歳条件競走	5 万円

エ 公益社団法人日本軽種馬協会による副賞贈呈事業

牝馬の所有意欲の継続と牝馬限定競走の維持拡大による軽種馬生産経営安定化に資する観点から、日本軽種馬協会の支援のもと実施する「牝馬限定競走勝馬馬主への副賞贈呈事業」について全47競走を対象に実施した。

オ 2歳優良馬導入促進事業の実施

良質な2歳馬の地方競馬への早期入厩促進を図ることを目的に、地方競馬全国協会が実施する事業を活用し、2歳限定競走（JRA 認定競走を除く）において付加賞金を1着馬から3着馬までの馬主に贈呈した。

・付加賞金（進上金、番組賞金加算対象外）

1着 50 万円, 2着 10 万円, 3着 7.5 万円（1R 67.5 万円 55 競走予定）

・実施競走数 55 競走

カ 地方競馬全国協会シリーズ競走への参加

・スーパースプリント

短距離競走をシリーズ化して実施する「スーパースプリントシリーズ」に参加。

・対象競走 「グランシャリオ門別スプリント(ミッキーアイル賞)」1着本賞金250万円

実施日 7月5日(木) 距離 1,000m

・グランダム・ジャパン

牝馬重賞競走をシリーズ化して実施する「全国牝馬重賞シリーズグランダム・ジャパン」に参加。

・対象競走「ノースクイーンカップ(シニスターミニスター賞)」 1着本賞金500万円

実施日 7月18日 (水) 距離1,800m

・対象競走「フリーターズゴールドカップ」 1着本賞金3,100万円

実施日 8月16日 (木) 距離2,000m

・対象競走「エーテルワイス賞」 1着本賞金2,000万円

実施日 10月16日 (火) 距離1,200m

・ダービーシリーズ

ジャパンダートダービーに向けた地方競馬の3歳重賞体系整備を目的とし、全国8カ所で実施されるダービーシリーズに参加。

・対象競走「北海優駿 H1(イストラホニータ賞)」1着本賞金 500万円

実施日 6月20日 (水) 距離2,000m

・未来優駿

兵庫ジュニアグランプリや全日本2歳優駿に向けた2歳重賞体系整備を目的に設定され、全国7カ所で実施される「未来優駿」に参加。

・対象競走「サッポロクラシックカップ H2(パイロ賞)」1着賞金 300万円

実施日 10月30日 (火) 距離1,200m

・ヤングジョッキーズシリーズ

若手騎手の騎乗数の増加及び騎乗技術向上を図るためJRAと地方の見習騎手が参加する騎手交流競走を「2018 ヤングジョッキーズ トライアルラウンド門別」として実施した。

実施日 8月23日 (木) 2競走

キ 門別グランシャリオジョッキーズ競走

JRA および地方競馬所属の一流騎手を招待し、北海道胆振東部地震により被災された方々の復興への取り組みに寄与することを目的として、北海道胆振東部地震復興支援競走「門別グランシャリオジョッキーズ競走」を実施した。

実施日 11月1日 (木) 2競走

(6) ファンサービスについて

門別競馬場が主場化、グランシャリオナイターとして10年目の節目を迎えた平成30年度は、オフィシャルホームページのリニューアルを行い、道内外ファン

に向けて情報提供の充実を図った。

また、季節や実施するイベントに合わせた「来場者の動機」を意識したホスピタリティの高いファンサービスの提供や、地元と連携した特産市、連携企業とタイアップしたイベント、道内プロスポーツクラブとのタイアップしたバスツアーをそれぞれ実施し、新たなファンの獲得とリピーターの拡大に努めた。

ア ポイントカードUmacaの充実

来場ポイントカードUmacaポイント付与方法や賞品を充実させ、また、キャンペーンの概要を開幕からポスター等で広く告知することで来場の促進と充実したファンサービスの提供を図った。

イ ニコニコ生放送での競馬中継

ニコニコ生放送での競馬中継を引き続き実施することにより、若年層（次世代の競馬ファン）へホッカイドウ競馬をアピールした。

ウ 地域吹奏楽部によりファンファーレ演奏

TCKと連携した試みとして、ブリーダーズゴールドカップでの「トゥインクルファンファーレ」の生演奏に加え、富川高校吹奏楽部によるファンファーレ演奏のほか、「びらとりDay」での平取中学校吹奏楽部によるファンファーレ演奏を行った。

平取中学吹奏学部	びらとりDay	(8月 7日)
トゥインクルファンファーレ	BGC	(8月16日)
富川高校吹奏楽部	エーデルワイス賞	(10月16日)
	道営記念	(11月15日)

エ イベント広場の活用

北海道の四季に合わせた春・夏・秋のイベントを実施するとともに、「ひだか特産市」など地元食材や観光PRを合わせて実施することにより、日高管内及び門別競馬場のPRに努めた。

また、初めての試みとして、「手ぶらでキャンプ in 門別競馬場」と題したイベントをとねっこ広場で実施、家族連れ3組とゲストに細江純子さんをお迎えし、夕食作り体験や翌朝の調教見学など、馬産地日高ならではのキャンプを行った。

- ・春のケイバまつり

VR体験コーナー、ひだか特産市など

- ・北海道スプリントカップイベント

北風沙織による「ちびっこランニングクリニック」など

- ・手ぶらでキャンプ in 門別競馬場

スノーピークのキャンプ教室や騎手との交流会など

- ・シュエット・ジュマン・フェスティバル

STVラジオ公開生放送「まるごと！エンタメーション」

- フラワーアレンジメント教室や盲導犬とのふれあいイベントなど
- ・ファン感謝デー
- 大型テントを設置しての石狩鍋のふるまいサービスなど

オ 道外新聞への馬柱掲載の充実

発売額が好調に推移しているインターネット及び電話投票の発売拡大策を図るため、札幌馬主協会様等からのご支援により、関東・東海・関西エリアのスポーツ新聞に馬柱掲載を行った。

(サンケイスポーツ、日刊スポーツ、スポーツニッポン、スポーツ報知、

東京スポーツ、中京スポーツ、大阪スポーツ、九州スポーツ 8紙2レース掲載)

また、週刊競馬ブックでの重賞競走馬柱掲載やブックオンライン(ホームページ)から重賞予想データ無料ダウンロードを実施した。

カ SPAT4 及び楽天競馬との連携

南関東電話投票(SPAT4)及び楽天競馬との連携により、会員へのメール配信・ホッカイドウ競馬情報の郵送・動画配信や日高の特産物やオリジナルグッズなどが当たるファンプレゼントなどの実施により発売拡大を図った。

キ 無料送迎バスの集客拡大

開催日に札幌駅北口から門別競馬場までの無料送迎バスを毎日運行し、札幌圏から門別競馬場への来場促進を図るとともに、来場者が多く見込まれる“ケイバまつり”等には臨時便を運行するなど、効果的な集客策に努めた。

また、送迎バスの空き時間を活用した、門別温泉「とねっこの湯」無料シャトルバスを運行し、リピーターの獲得を図った。

・総乗車数 延べ2,486名 (前年比 101.7%)

うち、とねっこの湯利用 386名

(7) 北海道著名企業とのコラボレーション

北海道を代表する企業とのコラボレーションをより一層図り、「MADE IN HOKKAIDO KEIBA」をスローガンに、オール北海道として様々なイベントを実施し、ホッカイドウ競馬により親しめるよう、著名企業とのタイアップを積極的に推進した。

・サッポロビール、ポッカサッポロ

春のケイバまつりでの協賛競走実施やプレゼント抽選会など

・AIRDO サンクスデー

機内販売スープの試飲会やオリジナルグッズ抽選会など

・レバンガ北海道ティップオフナイター

現役選手とのファン交流会や予想トークステージなど

・ソメスサドル

フルールカップ競走の冠協賛や抽選会への賞品提供など

(8) 門別競馬場を活用した馬産地の活性化（公益目的実施事業）

法人移行に合わせて公益目的実施事業として、軽種馬生産の振興と馬産地の活性化に資するための各種イベントを実施した。

附属明細書

平成30年度事業報告には、「一般社団法人及び一般社団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。